

平成 27 年度 第 3 回 市長と語ろう！タウンミーティング 議事録

開催日時 平成 27 年 6 月 19 日（金） 午後 7 時～8 時 30 分

開催場所 笠間市役所 岩間支所 2 階大会議室

参加者 22 人

《フリートーク（意見交換）》

- 1 常磐線期成同盟会について
- 2 外国人受入れについて
- 3 ビザの有効期限の延長と免税店の設置について
- 4 人口減少化における市の認識について
- 5 広域連携について
- 6 企業誘致について
- 7 北山公園・吾国愛宕ハイキングロードの予算について
- 8 畜産試験場跡地について
- 9 緊急時の市の蓄えについて
- 10 市債について
- 11 郷土愛の醸成について
- 12 かさま市民運動会のチーム割について
- 13 岩間地区の地域交流センターについて
- 14 かさま周遊バスについて
- 15 イベント「駅からハイキング」を続けてもらいたい
- 16 筑波海軍航空隊跡地について
- 17 土師地区の防空壕及び仲村地区の桜花について
- 18 耕作放棄地について
- 19 新人職員について

《内容》

1 常磐線期成同盟会について

【意見等】

笠間市は交通の利便性がある。JR 常磐線、JR 水戸線が市内を通過している。JR 常磐線は、上野東京ラインができて、品川まで行ける状況になった。しかしまだ不満があり、横浜、小田原、熱海まで行かなくてはならない。なぜ品川止まりかという問題がある。常磐線も水戸線も交直両用型である。常磐線は、藤代で Z セクションと言って、交流から直流に切りかえている。これは茨城県内においては交流地区であり、車両においては直流系の車両が使えない。そのためせっかく相互乗り入れの状態が保ったにもかかわらず、車両

は全部直流型であるため、県外から入ってくる車両がこちらに入ることはできない。それは、旧八郷にある施設が原因で、県や気象庁に移転の請願を出した。問題は財源であって、財源確保は容易ではない。よって常磐線、水戸線沿線の各市町村でそれぞれ期成同盟会を作っているの、県の方に請願してもらいたい。そうすれば、県も動かざるを得ない状況になるということ言っている。隣の石岡、かすみがうらも常磐線期成同盟会に加入という動きになっているので、併せて笠間市も期成同盟会に加入できないものかという考えがある。これに対して市長の意見を伺いたい。

【回答】

笠間も常磐線の期成同盟会に加入しています。品川発、東京発の実現は沿線の自治体と県が一緒になって要望してきた経緯があります。全線が品川発に向けられるように、今後とも取り組んでいく意思統一をして、JRの方に働きかけを毎年行っていく予定になっています。

笠間は、高速道路のインターチェンジ、JRの駅がほかの地域より非常に多く利便性が高い地域だということが言われています。いろいろと輸送関係、水戸線を含めて改善に取り組んでいきたいと思っています。

2 外国人受入れについて

【意見等】

中国人の方が、秋葉原などに爆買いにきてお金を落としていく。茨城空港の上海便がだいぶ増えている。またベトナム、タイの方からも直行便が入るようになると新聞で見た。それを利用して観光PR、外国人受入れ、地場産業などにどのよう反映するか、空き家を利用して外国人の就労を進めていくなど、具体的ものがあればお聞かせ願いたい。

【回答】

日本の人口が減少していく中で外国との交流というのは、貴重なことになっていくものと私は思っています。国を挙げて外国人の観光客を増やす取組みを行っていて、中国人を中心として電気街で爆買いをしています。

笠間においても陶炎祭やつつじ祭りには、台湾の方も来ています。交流人口の拡大という意味で、非常に重要なことで、その受け皿の取組み、整備をしていかなければいけないと思っています。

昨年度、外国人受入れ方針を策定しました。それを基にモデル地区を選定し、英語表示や英会話、Wi-Fi整備を行っていきたくと思っています。

外国人が定住するかしないかという議論は、難しい部分がありまして、積極的に住まわせていいのか、検討しなければならないことがあると思います。ただ、農業を中心に既に作業を手伝っている外国人の方もいますので、職種によっては積極的に受け入れていく必

要もあると思っています。

今年の5月に、タイのメイファールアン財団と協定を結んで焼き物の研修生を県と一緒に受け入れるという方向性を出しています。外国人の研修制度は、市の方も考えていることなので、市としても実現できるように支援していきたいと思っています。

3 ビザの有効期限の延長と免税店の設置について

【意見等】

茨城空港に上海便が来ている。日本だと沖縄と仙台空港に一旦中国人の方が入国するとビザの有効期間が延長されるはずだが、茨城空港でもできるように県と話し合って実現できないか。

もう一つは、笠間の市内にはきらら館がある。あの近辺に免税店があれば、それだけでも外国人を誘致できるようになると思う。

【回答】

茨城空港を活用した外国人の受入れについては、上海便はほぼ満席です。ただ残念ながら、茨城に滞在するというよりも、東京に行ってしまうなどの現実があるので、笠間にどうやって来てもらうのかを考える必要があると思います。外国人を受け入れるだけの下地をきちんと作らないと外国人が来た、中国人が来た、誰も会話ができない、お金の支払いの対応もできないということではまずいですから。まず下地をつくる中で、免税店の扱いができるか、中国のクレジットカードが使えるかななどを検討していきたいと思っています。

4 人口減少化における市の認識について

【意見等】

人口減少になると日本創生会議の中で、笠間の場合は将来的に50%に半減する危機があるということだが、どういうことになるのか、財源的な問題、我々の意識の問題、それがピンとこない。人口減少の現実を踏まえて、どのように考えているか危機感を共有したい。

【回答】

人口減少の増田レポートが出ました。今のままでは人口が減ってしまい、地域社会が成り立たなくなってしまうという警笛を鳴らしたものと受けとめています。

笠間の人口は約78,000人で2040年には20,000人近くの方が減ったら、今のままではいろいろな維持管理が難しくなってきます。公共施設もコンパクトにして、整理していくことが必要であり、道路などインフラも広げていくより縮小していくという対応が必要だと思っています。

また、一番困るのは地域コミュニティが維持できなくなることです。例えば、一つの行政区で3割の人口が減ると、コミュニティが維持できるかが課題になります。その場合は

一つのエリアをもう少し広いエリアで考えることが必要だと思っています。

まち、ひと、しごとで地方創生の事業を行う財源は、国がまだ示していないので我々も困っています。いろいろないい戦略を作って実現していこうと思っています。

5 広域連携について

【意見等】

人づくり、ものづくり、まちづくりということで、行っているようだが、すべてを行うのに相当なお金もかかると思う。水戸市と何らかの協定を結んだということテレビで聞いたが、笠間ができないことは、水戸市や隣接市町村の中で、補完してもらおうという考えか。また、城里町、茂木町、益子町との婚活での連携もいいことだと思う。お互いのいいところと悪いところを認めて、対流を起こすような形にすればおもしろいが、どのように考えているのか。

【回答】

平成の大合併が終わって次の合併というのは、私は市長という立場では全く考えていません。隣接市町とお互いサービスを交換しながら一体的に考えていくことが効率の面で必要だと思います。定住自立圏構想ということで、周辺自治体と行っているのは消防、医療、公共交通を広域化しようと勉強会をスタートしています。

6 企業誘致について

【意見等】

2次産業など企業誘致に頑張っていることは聞いたことがあるが、3次産業の企業を誘致するに当たって、優遇措置を設定することはできるのか。例えば、内原はイオンができて、内原駅の乗降者数が大分増えたと思う。それだけでも人が集まるということで、いろいろと改善されるのではないか。

【回答】

市では、雇用の確保ということで、民間企業の誘致は、茨城県内では最大の優遇措置を作って進めています。面積によって違いますが、最大で5億円の支援を条例で整備しました。

なお、3次産業でも、業種や進出場所によって適用されます。例えば、小売業でかつ茨城中央工業団地（笠間地区）などに進出した場合は対象となります。

笠間は業種を選んでいる猶予は無いと思いますので、進出してくれる場合は最大限の支援はしますという姿勢で取組みをしています。製造業に限らずサービス業を含めて、誘致は積極的に進めていきます。

7 北山公園・吾国愛宕ハイキングロードの予算について

【意見等】

北山公園や吾国愛宕ハイキングコースの予算など具体的な事業内容を教えてほしい。

【回答】

北山公園は新設道路の整備によりキャンプ場、バーベキュー場が分断されてしまいますので、その再整備に要する予算で約1億5、000万円を計上しています。また、約800万円は、吾国愛宕ハイキングコースに案内板を新しく整備する予算です。

8 畜産試験場跡地について

【意見等】

畜産試験場跡地が工事中であるが、何になるのか教えてほしい。

【回答】

畜産試験場跡地は県有地で、駅からも高速道路のインターチェンジからも近い市のほぼ中央に位置しています。利活用するうえで、排水設備の整備が必要であるため調整池を造っています。

9 緊急時の市の蓄えについて

【意見等】

災害など緊急事態が生じた時に使える市の蓄えはあるのか。

【回答】

市の蓄えですが、例えば大規模な災害があるとお金が必要になってきます。一定のお金としては、財政調整基金といって65億円ぐらいあります。

10 市債について

【意見等】

市債はどういうところに使っているのか。

【回答】

市債の使い方ですが、事業実施には国や県の補助金、市のお金などを組み合わせて、行っています。そのような中で、市債を発行してお金の借入れをしています。借入れたものは複数年で返済していきます。市債の借入残高は、一般会計から特別会計で532億円ほどありますが、健全な財政運営ができていると考えています。借入れをするときは、有利なものを選んで行っています。また、市債は主に公共施設に充てており、30年など

長い間使用していくものなので、世代間の公平性の視点で、将来世代にも負担していただくこととなります。

11 郷土愛の醸成について

【意見等】

英語教育に力を入れていると見聞きする。グローバルな視点も大事だが、笠間の芸術、偉人、更には笠間で生まれ、いろいろな人のおかげで育った事などふるさとのローカルな視点も大事だと思う。それによって、中学、高校を卒業して、大学へ行く場合でも、笠間のいろいろなことを勉強したということで誇りにつながり、プライドを持つようになるのではないかと思う。ローカルの発想を取り入れてみてはどうか。

【回答】

英語教育の強化推進事業を今年度から始めています。英語力を付けることはもちろん目標の一つですが、あわせて郷土を愛する心を培うという目標があります。観光客が多いですから、中学生なら中学生なりにおもてなしの英会話ができるように、笠間のよさを観光客に説明できるように、英語で発表できるような英語教育を行っていきたいと思っています。これからもふるさと学習を大事にしていきたいと思います。

12 かさま市民運動会のチーム割について

【意見等】

チームの割り振りとか今から行くとすれば、具体的なチーム作りの考えはあるのか。

【回答】

この大運動会は、合併10周年の一環として、一体感を更に醸成しようと企画し、10月18日に実施予定です。地区対抗リレー、学校対抗リレー、職場含めた対抗リレーも実施する予定になっていて、行政区単位でなくて、小学校の学区単位でチームを作る予定で進めています。区長会と相談しながら進めていくということで、まだ煮詰まってきていません。

13 岩間地区の地域交流センターについて

【意見等】

岩間駅前に地域交流センターが計画されていると思うが、話は進んでいるのか。また、特産品などのPRができるような施設にしていくのがいいのか、その兼ね合いをお聞きしたい。

【回答】

岩間駅前地域交流センターを造るということで、基本設計は終わっています。今年度実施設計に入っていく予定です。名前のとおり岩間地区の交流の場、市民活動の拠点という目的を持って進めています。ただ、商店街、区長さん、商工会の理事の方たちなどから、旧役場跡地に造ってもらいたいという要望が上がってきていまして、2度ほど話し合いをしましたが、まとまっていません。

市としては、一方的に決めてきたわけではないので、駅南口の砂利の広場に、造るということで詰めていきたいと思っています。地域の方は旧役場跡地も活性化のうで、使い方の方で疑問を持っていますので、オール岩間の方の意見を聞きながら検討委員会を作っていきたいとお話しをさせていただいています。

14 かさま周遊バスについて

【意見等】

循環バスが、笠間地区と友部地区を走っているが、岩間地区に回すことはできないか。

【回答】

循環バスの運営予算は、合併前に市で半分、残りの半分を日動美術館、笠間稲荷神社、観光協会が負担してスタートした事業です。合併後に、友部駅に特急が止まるので、友部地区からのアクセスも必要ということで、友部駅に回るようになりました。そういう経緯があるので、他のところを回るとなると、時間の問題、費用の問題など、いろいろな課題があるのが事実です。それを全部まとめて、民間負担を無しに、市が行うとなるともう一台ぐらいないとできないと思います。

15 イベント「駅からハイキング」を続けてもらいたい

【意見等】

岩間地区には愛宕山といういい山がある。駅からハイキングというイベントを、2年ぐらい前に一度行ったが途切れてしまっている。駅からハイキングを続けてもらいたい。

【回答】

岩間地区の方には、愛宕山への思い、存在感は大きいし、ハイキングをしている方も、特に休日に大勢いらっしゃいます。そういう意味でも、案内板の整備などしっかり行っていききたいと思います。

ただ、イベントを仕掛けるのが、市、地域、観光協会、いつも市が仕掛けるものではないと思っています。皆でやろうかとかの考え方も必要ではと思っています。

16 筑波海軍航空隊跡地について

【意見等】

筑波海軍航空隊跡は戦争遺構で、常設展示ルームの継続はどうなっているのか。

【回答】

筑波海軍航空隊の旧司令部庁舎は県の持ち物であり、NPOが戦争関係の遺品を展示しながら公開をしています。1年3か月で10万人を超える人が入館をしています。来年の3月で公開は終わりという予定になっています。市では恒久的な施設として、保存しながら公開していきたいと県に要望していますが、運営費をどこが出すのが課題です。

17 土師地区の防空壕及び仲村地区の桜花について

【意見等】

土師の十字路辺りに最大規模の地下壕があったらしい。あと、仲村地区に桜花の発着訓練を終戦間際に行っていたという話がある。そういうものに対する文化財の保護、調査などはなされたのか。

【回答】

土師地区の防空壕と仲村地区の桜花のことは、わかりませんので調べてみます。

18 耕作放棄地について

【意見】

笠間は兼業農家が非常に多い。法人化する方も出てきているというがまだ少ないと思う。活性化を考えるならば、農業を重点化することが必要ではないか。耕作放棄地が非常に多くなっているのので、各地区の代表と十分に密着しながら農地の流動化を進めてほしい。

【回答】

農業は一つの大きな産業です。産業として成長していくことが大切だと言われています。しかし、今の形態では、成長していくのは無理であろうと思っています。これからは、兼業から専業、個人から法人、集団化して育てていくことが必要ではないかと考えています。市では農業公社を立ち上げ、農地の集約化や新規就農者の育成を行う予定でスタートしました。笠間市では若い人を中心に新規就農者は50から60人います。この人達は規模拡大に意欲は旺盛です。私は、兼業農家はいずれ止めていかざるを得ないと思っています。専業の人達に、行政も支援していくということが日本の農業を成長させることだと思っています。いろいろな施策を展開していきたいと思っています。

岩間地区はやはり栗が1番ですので、栗を支援していきます。農家の方もいい栗を作ろう、いい米を作ろうと、そういう意欲が必要だと思います。

19 新人職員について

【意見等】

新人職員で地名のわからない職員がいる。まず地域を教えないといけない。

【回答】

その通りだと思います。採用は概ね6割ぐらいが地元で、4割が市外だと思います。市外の人が笠間市役所に勤めたときに、笠間の地名がわかるかと言ったら、難しいと思います。おそらく笠間地区の職員で採用された者も、岩間地区のことはわからないし、岩間地区で採用された職員も、笠間地区の地名まではわからないと思います。しかし、わからないで済まされないことですので、しっかりと教育はしていきたいと思います。